

人間研究会

背景

昨年度の研究会では、「人間」という概念が歴史的に、典型的な人間観(近代・西洋・白人・男性)に対立するような「他者」(前近代・東洋・黒人・女性)と出会うことによって、様々に変化してきたことを確認した。このような昨年度の成果を踏まえて、今年度は、「人間」とその「他者」との関係に重点をおいた研究を行う。

この問題は、世界中が新型コロナウイルスの対策に追われている現在、特に問うべき問題である。テレワークやオンライン授業などの遠隔技術を用いたコミュニケーションが一斉に試行されている目下の状況において、私たちが「他者」と関わる仕方、および「人間」の在り方は大きく変化することが予想される。

目的

「人間」とは何か一人間の再考—

これまでの「人間」の在り方を再考しこれからの「人間」の在り方を見定めていかなければならない。

運営方法

場所:主にZoom/究論館プレゼンテーションルーム

頻度:月に1、2回

形態:①研究発表・議論 ②読書会

①各自の専門分野について初修者にも分かり易20分で報告 質疑応答と議論

②読書会とあらかじめ設定した共通課題についての討議

メンバー・研究内容

文研・哲学／蛸子良風(代表)現象学・レヴィナス
国関／北和樹(副代表) AIロボットの国際的ガバナンス
文研・英語圏／本井佑衣 認知科学・対話研究
文研・英語圏／木下さき ファンタジー文学
文研・教人／朝倉愛里 教育人間学
文研・英語圏／猪熊慶祐 アメリカ文化・文学

開催内容

・研究発表

「皆が皆を笑う—クリスティ・ミンストレルズの笑劇について」猪熊

「科学技術ガバナンスにおけるUの課題」北

「考えるだけでは物足りないと感じるのはなぜか」蛸子

「対話における音声のインタラクションリズムについての研究」本井

「『ハリーポッターと死の秘宝』における死生観—中世説話・おとぎ話の影響—」木下

「現代社会における出会いに関する人間学的考察」朝倉

・読書会

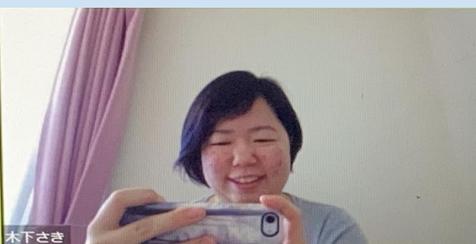
J.P. サルトル『実存主義はヒューマニズムである』

【通算9回開催】

※上記を除く3回は運営計画協議等を実施



Kita Kazuki 北和樹



木下さき



Kei Inokuma



朝倉愛里



Yui Motoi



蛸子良風